



## 「近自然河川工法」って何なの

### 魚や水辺の植物にも気を配った河川改修工事

日本では、台風や洪水が多いため、いろいろな治水事業が行われてきました。洪水の水をできるだけ早く流してしまうために、曲がりくねった川を直線にしたり、堤防をコンクリートでじゃぶにしたり、都市の川を地下にもぐらせたりする工事が行われてきました。これは、人間にとっては、災害に強い、住みよい町づくりでした。

ところが、川にすむ魚や、水辺の植物にとっては、たいへんすみにくい川になってしまったのです。

わたしたち人間は、自然環境の中の生き物であり、自然と共に生きていくことができなければ、地球に住めなくなってしまいます。そこで、できるだけ自然に近い護岸工事をし、魚や水辺の植物もすみやすい河川工事をしよう、という考えが出てきました。これを「近自然河川工法」といいます。日本では、「多自然型河川工法」といわれています。

この工法は、魚や水辺の生物のための自然環境を考え、美しい自然を守り、作り出し、という考え方です。つまり、洪水からわたしたちを守りながら、魚や水辺の植物たちがすみやすい環境に気を配り、自然に近い川の環境を作ろうとするものです。

### 近自然工法の中身

近自然河川工法では、洪水のときの外部から加わる力を小さくする、自然の川がもつ力強さを生かす、生物にやさしい河川構築物を造る、という考え方です。河川工事で直線にした川の流れを、くねくねと蛇行するように変え、ふだんの水の流れに変化をもたせ、できるだけ自然に近い岸辺にしようとするものです。

(監修・保岡 孝之)

